

Asia Indicators

発表日: 2026年1月30日(金)

台湾・25年成長率は+8.63%と15年ぶり高成長(Asia Weekly(1/26~1/30))

～半導体関連を中心とする輸出の旺盛さに加え、内需の堅調さも景気拡大を促す動きを確認～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

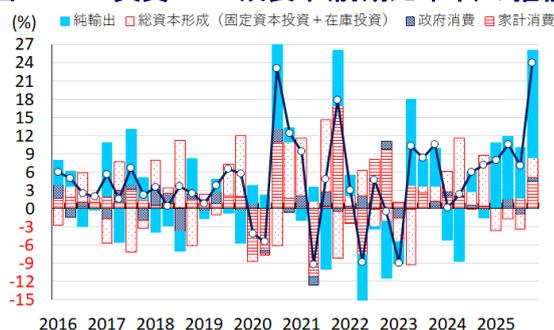
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/26(月)	(シンガポール)12月鉱工業生産(前年比)	+8.3%	+10.1%	+18.2%
1/28(水)	(オーストラリア)10-12月消費者物価(前年比)	+3.6%	+3.6%	+3.2%
	(インド)12月鉱工業生産(前年比)	+7.8%	+5.5%	+7.2%
1/29(木)	(フィリピン)10-12月実質GDP(前年比)	+3.0%	+4.0%	+3.9%
	(ニュージーランド)12月輸出(億NZドル)	76.5	--	68.1
	12月輸入(億NZドル)	76.0	--	71.5
1/30(金)	(韓国)12月鉱工業生産(前年比)	▲0.3%	▲2.1%	▲1.2%
	(台湾)10-12月実質GDP(前年比・速報値)	+12.68%	+8.50%	+8.21%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～半導体などを中心とする輸出の旺盛さも追い風に、2025年の成長率は+8.63%と15年ぶり高水準に～

30日に発表された10-12月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+12.68%となり、前月(同+8.21%)から伸びが加速している。季節調整値に基づく前期比年率ベースの成長率も+23.96%と10四半期連続のプラス成長になるとともに、前期(同+7.02%)から大幅に伸びが加速しており、足元の景気は底入れの動きを強めている。トランプ関税の本格発動を前にした対米輸出の駆け込みの動きに加え、世界的な半導体需要の旺盛な推移やAI関連投資の活発化も追い風に輸出は引き続き高い伸びとなるなど、足元の景気をけん引している。さらに、外需の堅調さを受けて雇用環境は底堅く推移するとともに、インフレは鈍化して実質購買力が押し上げられていることも重なり、家計消費の拡大ペースが加速するなど内需を下支えする動きもみられる。そして、外需の旺盛さやAI関連投資の堅調さを反映して企業の設備投資も活発化するとともに、公共投資の進捗促進の動きも固定資本投資や政府消費を押し上げており、内・外需双方で景気拡大の動きをけん引している様子がうかがえる。結果、2025年通年の経済成長率は+8.63%と前年(+5.27%)から加速し、世界金融危機からの景気回復の動きも追い風に上振れした2010年以来、15年ぶりの高成長となっている。

図1 TW 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

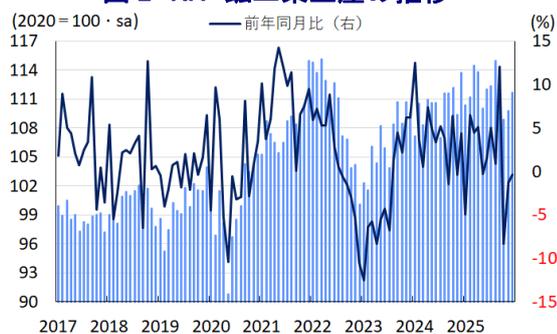


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～トランプ関税の本格発動前の駆け込みの反動が懸念されるなか、幅広く生産活動は力強さを欠く～

30日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比▲0.3%と3ヶ月連続のマイナスとなるも、前月(同▲1.2%)からマイナス幅は縮小している。前月比は+1.7%と前月(同+0.8%)から2ヶ月連続で拡大するなど底打ちしているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。分野別では、鉱業部門の生産が拡大するとともに、製造業においても生産拡大の動きが確認されるなど、最悪期を過ぎつつある様子が見えてくる。製造業のなかでは、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、電気機械関連の生産に底堅い動きがみられるほか、こうした動きを反映して金属関連や化学製品関連など素材、部材関連の生産も拡大している。一方、自動車など輸送用機械関連の生産は弱含む動きが続いているほか、縫製品関連などの生産も下振れする展開が続いているうえ、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も下振れしており、分野ごとにおける生産活動のバラつきが鮮明になっている。トランプ関税の本格発動を前に、輸出に駆け込みの動きが出て押し上げられた反動が懸念されており、生産活動の足かせとなっている様子が見えてくる。

図2 KR 鉱工業生産の推移



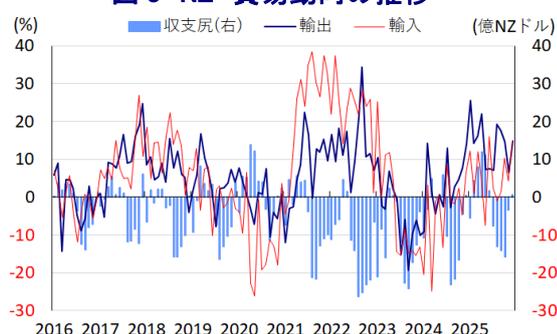
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド]～中国向けや米国向けを中心に輸出は旺盛に推移しており、輸入も堅調さが続いている～

29日に発表された12月の輸出額は前年同月比+14.9%となり、前月(同+6.4%)から伸びが加速している。前月比は+7.0%と前月(同▲2.4%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、頭打ちが続いた流れが変化しているうえ、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉などの輸出が大幅に拡大しているほか、材木・木製品関連、原油、果物など幅広い分野で輸出が拡大するなど、全体的に堅調な動きが確認されている。国・地域別でも、最

大の輸出相手である中国向けが堅調な推移をみせるとともに、トランプ関税の本格発動の影響が懸念された米国向けも旺盛な動きをみせている。また、ASEANなどアジア新興国向けも堅調に推移している一方、隣国オーストラリア向けのほか、日本向けやEU向けは力強さを欠くなど対照的な動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+14.7%となり、前月（同+4.3%）から伸びが加速している。前月比も+4.5%と前月（同▲0.8%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、原油・石油製品関連の輸入が拡大するとともに、機械製品や電気機械関連、日用品関連など幅広い分野で輸入が拡大しており、内需の堅調さを反映している様子がうかがえる。結果、貿易収支は+0.52億NZドルとわずかではあるものの、前月（▲3.35億NZドル）から6ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図3 NZ 貿易動向の推移



【インド】～GST引き下げによる需要喚起の動きが生産を押し上げるも、分野ごとのバラつきが鮮明になる展開～

28日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比+7.8%となり、前月（同+7.2%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しているとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、鉱業部門で生産拡大の動きが続いているほか、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も大幅拡大が続くなど、経済活動が活発化している様子がうかがえる。一方、製造業の生産はほぼ横這いで推移しており、供給力の弱さが生産活動の足を引っ張っている可能性がある。製造業のなかでは、一産品関連や中間財関連のほか、インフラ関連などで旺盛な動きがみられるほか、耐久消費財の生産は力強さを欠いているうえ、非耐久消費財の生産は下振れするなど、分野ごとのバラつきが鮮明になっている。モディ政権が実施したGST（財・サービス税）の実質引き下げによる需要喚起策を受けて、個人消費が押し上げられていることが生産活動をけん引しているものの、供給力を巡る懸念が足かせとなっている様子もうかがえる。

図4 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みの反動により、幅広く生産に下押し圧力～

26日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比+8.3%となり、前月(同+18.2%)から伸びが鈍化している。前月比も▲13.35%と前月(同▲7.77%)から2ヶ月連続で大幅に減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国においては、月ごとのバイオ・医薬品関連の生産が大幅に上下双方に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比▲62.96%と前月(同▲26.63%)から2ヶ月連続で大幅に下振れしている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでも前月比▲4.94%と前月(同+1.18%)から4ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きを強めた流れに変化の兆しがうかがえる。分野別では、縫製品など軽工業関連の生産は堅調な動きをみせるとともに、発電機や輸送用機械など機械製品関連の生産にも底堅さがみられるものの、主力の輸出財である半導体など電子部品関連、重化学工業関連など幅広い分野で生産が軒並み下振れしている。トランプ関税の本格発動を受けて、その前に輸出に駆け込みの動きが出た反動が影響している可能性があると考えられる。

図5 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。